

2020年度 東京都市大学 教育フロンランナー賞 受賞一覧
(50音順)

賞名	賞のサブタイトル	エントリーNo.	科目名	授業担当者	コメント(受賞理由)		
1	ICT優秀賞		「主体的学びの環境構築授業」 フロンランナー	32	人間科学部 児童学科 社会的養護	泉 秀生	事前のオンデマンド講義、リアクションペーパーによる課題実施、当日のオンライン講義によるグループディスカッション、を組み合わせ毎 回実施し、学生の主体的学びの環境づくりを大切にされた点が参考になる。
2	FD貢献優秀賞		「臨場感あるオンデマンド授業」 フロンランナー	17	理工学部 エネルギー化学科 物理化学(3)	塩月 雅士	オンライン化で学びの質が保たれることが第一となるよう考慮した結果、数式を多く扱うため各自が自身のペースで学べることがベストと判断しオンデマンド動画配信とした授業。配信教材には、電子黒板や電子ペンの使用による書き込みや、そのための資料が綿密に準備され、授業に臨場感がある。画面共有ではなく、プロジェクションを使用し講義する姿を見せることで、学生に安心感のある落ち着いた学びの場づくりを提供している点が参考になる。さらには、毎回の授業でのZoomによる学生とのやり取りにより意見や疑問点を毎回の授業に反映させている。
3	ICT優秀賞		「学生を引き付ける高技術映像授業」 フロンランナー	40	理工学部 機械システム工学科 流れ学(1)	白鳥 英	ICTツール上での毎回の小テスト実施の中で内容に関する質問を受け、授業に関するアンケートも取って、次回授業で丁寧に回答して学生の理解度の向上と参加意識を高めている。また、オンデマンド授業であっても教室で受講しているような雰囲気醸し出し、教育効果を高める工夫を複数の様々な方法で行っている点や、学生の集中力維持と心的負担軽減のために、映像編集と音声品質のためのICT機材や技術を適切に活用している点が参考になる。
4	FD貢献優秀賞		「学生の努力を引き出す授業」 フロンランナー	51	共通教育部 外国語共通教育センター Communication Skills(2)	杉本 裕代	Nearpodなどの様々なツールや授業スキルが適材適所に配置され、綿密に準備した魅力的な講義が構成されている。学生がなんとか英語を話そうとしている姿がみられ、努力を促す良い学習環境が作られている点が参考になる。
5	授業実践優秀賞		「学生の参加・関心持続型授業」 フロンランナー	14	共通教育部 人文・社会科学系 スポーツ・健康論	椿原 徹也	情報ツールの利用の面では、高度な機能を利用しているわけではないが、それらをタイミングよく利用し、一方通行の授業にならないように工夫されている。科目の性質上必要なこととはいえ、終始学生の積極的な参加を促し、関心を持続させるように意図して授業を進行している点が参考になる。 Zoomにおけるリアルタイムの授業において、実際に家にあるものをうまく利用した点や実践の様子をその全体像が分かるようにビデオカメラで映した点が大変参考になる。

賞名	賞のサブタイトル	エントリー No.	科目名	授業担当者	コメント（受賞理由）		
6	授業実践優秀賞		「学生の理解を深める授業」 フロントランナー	10	理工学部 自然科学科 物理学(1)演習	津村 耕一	1Qの授業であるにもかかわらず、ブレイクアウトセッションを積極的に利用している点は「フロントランナー」にふさわしい取り組みと言える。適切な時間で場面転換をしながらグループワーク、成果発表、解説などをうまく組み合わせしており、学生の集中力を維持させ、学習内容を理解させる授業方略として参考になる。
7	FD貢献優秀賞		「学生の集中力持続型授業」 フロントランナー	8	理工学部 自然科学科 情報リテラシー演習	西村 太樹	授業進行が丁寧で、一つ一つの指示が明確・適確なことによりスムーズな進行がなされることで、学生の集中力を持続させ参加意識を持たせる工夫とスキルが素晴らしい。TAによる待機室やチャットの管理など、遠隔授業時のTAの活用方法としても参考になる。
8	ICT優秀賞		「ICTツール効果的活用授業」 フロントランナー	50	環境学部 環境経営システム学科 合意形成論	馬場 健司	多数の受講生全員（140名）に対するオンライン授業として、交渉シミュレーション等を用いた演習を行うためにICTツールを効果的に活用して、周到に履修者への情報提供、議論環境、プレゼンテーション環境を構築し、本来の授業成果を上げている点が参考になる。
9	授業デザイン優秀賞		「SD PBLコース設計」 フロントランナー	24	建築都市デザイン学部 建築学科 SD PBL（1）	福島 加津也 佐藤 幸恵	ZOOMに加えてMIROを導入した、チームティーチングで実施するオンラインPBLとしての新しい試みが評価できる。PBLでありながら実空間にも劣らない授業進行を可能としており、作業状況も外から確認・共有できる環境構築が大変参考になる。 miroを効果的に利用した好例と言え、今後のSD PBLの全学展開にとって参考になる内容である。PBLを進めるにあたって必要な、共有ホワイトボード機能を活用するなどして、オンラインでも対面と同等なコミュニケーションをグループに提供するとともに、教員がグループの動きを確認できるような環境が構築されている点も注目に値する。